大杉谷渓谷登山

2017年5月6日

日　　２０１７年４月２６～２７日（水～木曜日）　　１泊２日登山

山域山名　　大杉谷から大台ケ原　　**日出ケ岳**１６９５ｍ

登山目的　　〇日本三大渓谷・日本秘境百選である大杉谷を遡行する。

登山方法　　〇縦走方式。

メンバー　　清水　伸一　　永峰　誠一

コースタイム（概略）

（登山口までの交通）：近鉄京都7:10（特急）―大和八木（特急）―名張（急行）―松坂（近鉄からJRへ乗り換え）―多気―10:14三瀬谷（徒歩10分）－道の駅奥伊勢おおだい（マイクロバス・エスパール）10:30―大杉谷登山センターにてトイレ休憩―11:50登山口（昼食）

（登山1日目）　大杉峡谷登山口出発12:05～第三発電所～大日嵜(グラ)～13:00京谷（ｷｮｳﾗ）谷出合～13:37千尋(ｾﾝﾋﾛ)滝前休憩所～14:16獅子(ｼｼ)ケ淵～14:35ニコニコ滝休憩所～14:50平等嵜～15:30桃の木山の家（宿泊）
１日目歩行時間：３時間25分（休憩含む）

（登山2日目）　桃の木山の家出発6:35～7:00七ツ釜滝～7:40崩壊地～8:10隠れ滝～8:40堂倉滝～9:50堂倉避難小屋～11:00シャクナゲ平～11:45日出ケ岳12:05～13:05牛石ケ原～13:15大蛇嵜～13:35シオカラ谷分岐～13:57吊り橋～14:35大台ケ原駐車場　　2日目歩行時間：8時間（休憩含む）

（大台ケ原からの交通）大台ケ原15:30―（奈良交通バス）―17:20近鉄大和上市17:38―18:13橿原神宮前18:25－19:30近鉄京都

天候　　1日目　曇りのち雨　　2日目　曇りのち晴れ

「所感」

私は、子どもの頃から、かなりの高所恐怖症である。従って皆んながあこがれる北アルプスなどへは怖くて登っていない。高い山でも富士山は崖がないので大丈夫であるが。

今回の山行は、嵜(ｸﾞﾗ)と呼ばれる絶壁を歩くとき、高所恐怖症のため、足が立ち竦んで迷惑を掛けるのではないかと参加を躊躇した。しかし、一人ではなかなか行けないコースであり、思い切って「参加します。」と返事をした。

しかし、前夜には高所恐怖症に併せて、最近、偶に起こるリュウマチのように両手の指が反り返って動かなくなって、鎖が持てない悪夢で汗びっしょりとなった。私にとって、新緑の渓谷を遡行する楽しみと高所恐怖症にチャレンジする山行である。

第三発電所横の登山道

朝の6時過ぎに家を出てから、JR、近鉄、JRと乗り継ぎ、エスパール交通のマイクロバスに1時間余り揺られてやっと12時前に登山口まで着いた。天気予報によって雨を覚悟していたが、今のところ大丈夫、簡単な昼食の後に出発。

5分ほど歩くと、宮川第三発電所に着く。

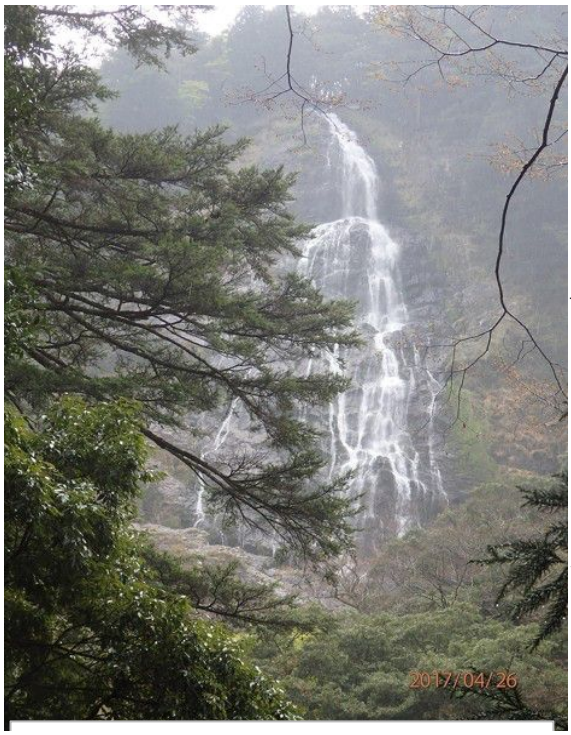
大日嵓

アスファルト道はここまでである。発電所横の砂利道を抜けると門扉があり、山道に入る。

最初の難関・大日嵓、一枚岩を削った道だが、鎖がしっかり取り付けられており、直下の流れも穏やかで恐怖心はない。

次の難関の能谷吊り橋もしっかりした吊り橋で、揺れないようにワイヤで引っ張ってあり、川床までの高さがさほどなく、これなら大丈夫。

能谷吊り橋



続いて渡った地獄谷吊り橋も同じような橋で、高所恐怖症にやさしい。

雨も小雨が降ってはいるが、木々の下を通るので、気にはならない。上を見ると新緑が美しく、下を見ると宮川（大杉谷）の碧い水の流れがある。何でこんなにも碧いのか驚くばかりである。

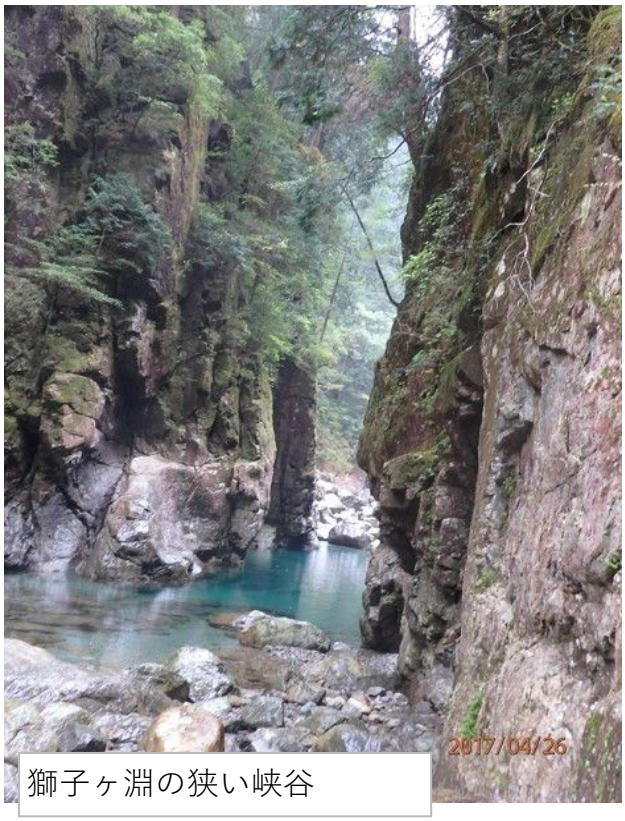
出発から１時間半で対岸に滝が見えた。近づく

千尋滝（落差160m大杉谷最大の滝）

につれて、全体の姿が現れた、大きな滝である。

「100m以上はあるなあ！」と清水さんの感嘆の声、しきりにシャッターを切っている。千尋（ｾﾝﾋﾛ）滝前休憩所（東屋）からゆっくりと雄大な滝を観賞。谷底の水はますます碧さを増している。

獅子ケ淵への下りの鎖場



獅子ヶ淵の狭い峡谷

登山道が少し険しくなってきた。滑落注意の看板が目に入り、慎重に先を急ぐ。河原まで降りたところが獅子ヶ淵。両岸が切り立った断崖になっている。一瞬、登山道は？と見渡すと左岸を高巻き道があった。

　ここまで、かなり起伏のある道を進んできたが、高巻きのためで、ほとんど高度は上がっていない。

ニコニコ滝前の断崖を覗き込む筆者

　獅子ヶ淵からの高巻きを登り、大岩の重なったトンネルをくぐると、対岸にニコニコ滝が見えてくる。断崖上を歩いても怖さを感じていなかったが、清水さんの写真では、右手で鎖を握り腰が引けているように見える。今もなぜか、写真を見て緊張している。

　堂々と流れ落ちるニコニコ滝を過ぎると右岸へ渡る吊り橋と大岩壁が見えてくる。平等嵓は大きな垂直の岩壁である。平等嵓の正面にて、清水さん「誰も登ってないのか！

アッ、オーバーハングや」とつぶやきながら登攀の痕跡を探しているようである。

今度は右岸沿いに進み、加茂助吊り橋を渡り、不動谷出合いを過ぎて直ぐに桃の木吊り橋が見え、その向こうに桃の木山の家が姿を現す。思ったより大きな山の家である。

登山口を出発してから、3時間半、15時30分に到着。

（山の家にて）

桃の木山の家は、最大500名収容出来るとのこと。当日は私たちを含め8名のみ。

16時半ごろに、一番風呂に入れて貰って体の芯から暖まった後、山小屋と思えない食事を頂いた。こんなに早く眠れるかと思いながら床に入ると、18時半までに眠りに落ちた。

（2日目、4月27日）

朝、4時半頃に目覚めたが、周りが未だ寝ているので１時間ほど横になって5時半起床。6時に朝食を摂り、6時35分に出発。天気は曇っていたが段々と良くなりそうである。

出発して間もなく、清水さんがサクラソウを見つける。

私は園芸種しか知らないが花びらがよく似ている。
続いて谷側にツツジが川の流

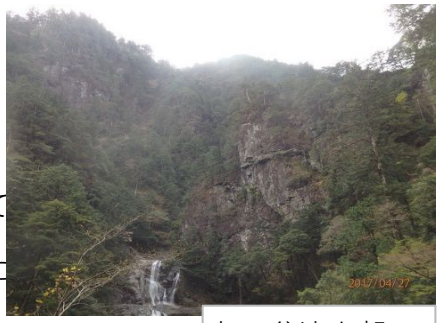
サクラソウ

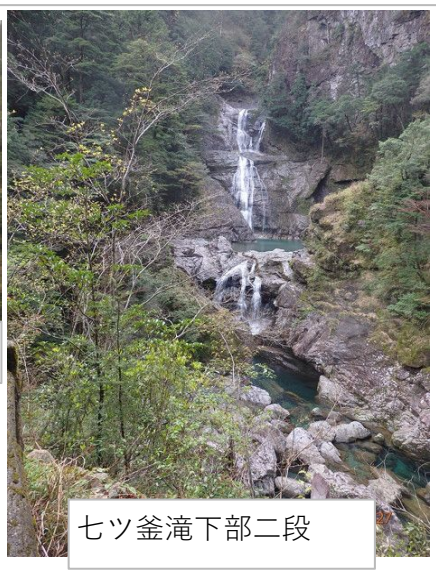
ヒカゲツツジ

れを背にして咲いている。
ヒカゲツツジと教えてもらう。
　ヒカゲツツジは登山道脇にたくさん咲いていた。
気持ちと体力に余裕があるためか、花や景色が美しい。
　１日目は起伏があっても高度が上がらなかったが、今日は、徐々に高度が上がっている。休憩小屋へ着くと前方に三段に分かれた七ツ釜滝が見える。

清楚なヒカゲツツジ

渓谷の水は2日目も澄んでいる


七ツ釜滝上部


七ツ釜滝下部二段

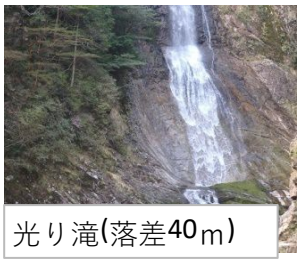
　七ツ釜滝上吊り橋を渡って、しばらく進むと崩壊大岩石群が本流に押し出された光景が現れる。どこを歩けば良いのか迷いそうである。崩壊大岩石で土砂がせき止められ、大きな河原が出来ている。

本流に押し出された崩壊大岩石群

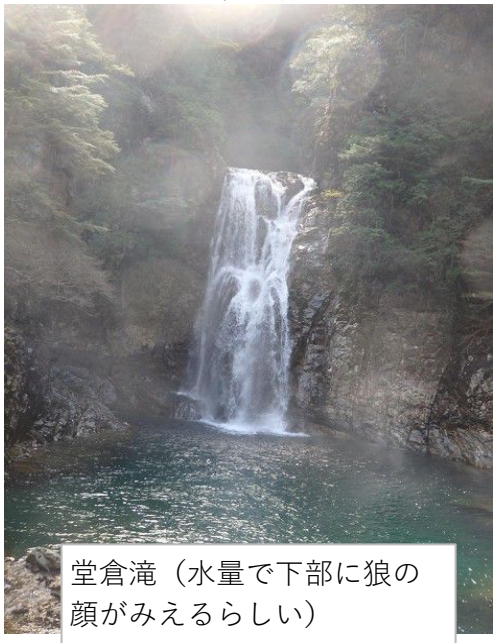
崩壊大岩石の中を歩く

渓谷の水は、土砂下を伏流して流れている。崩壊地を過ぎれば直ぐに光り滝。天気が良ければ、虹が見られるようであるが、残念ながら曇りであった。
　光り滝の上部に出ると、吊り橋があり、左側奥には隠れ滝、右側

には光り滝の滝口が見える。
そこから少しで与八郎滝となり、
徐々に高度を上げて行くと、
堂倉滝へ。堂倉滝吊り橋から


光り滝(落差40m)

本流からは見えない隠れ滝


堂倉滝（水量で下部に狼の顔がみえるらしい）

見る滝は落差は18mながらも滝壺が大きく豪快な瀑布である。滝しぶきが吊り橋まで飛んでくる。
堂倉滝が大杉谷最後の滝となり、この地点で、高度785m。これから尾根に取り付き、高度を900m上げて日出ケ岳を目指す。

ジグザグの尾根道は、けっこう険しく、一気に高度を上げていく。もくもくと歩くこと１時間ほど、やっと林道にでる。林道を右手に200mほど行くと左手に堂倉避難小屋が見え、そこで小休止。
小屋は20名余りが泊まれそうな立派な避難小屋である。
なだらかな広い尾根をしばらく行くとシャクナゲ峠で、シャクナゲの群生の続く道を高度を上げながら1時間でシャクナゲ平へ着く。シャクナゲのツボミは未だ固く咲くのには1月以上掛かりそうである。

シャクナゲ平を過ぎてから、シャクナゲの中に大きな白い巨石が散在しているのに気付く。さらに高度を上げていくと登山道にもあって、白い巨石が残雪であることを知る。シャクナゲの群生地は日出ケ岳山頂近くまで続いていた。

日出ケ岳山頂展望台

登山道が階段状になり、やがて日出ケ岳山頂の展望台が輝いてみえた。11:45、桃の木山の家を出発してから、5時間10分の行程であった。

展望台からの360度の展望は素晴らしい。海が直ぐ近くに見える。「あれが尾鷲湾、熊野灘」東方向を見て「富士山は見えんな！」西方向を見て「こちらが大峰山系、奥駈道を行ってみたい。小屋がないので・・・・」と清水さんが説明してくれる。

風が強いので、展望台の下で昼食。
小屋で作ってくれた「鶏肉のちまき」

が美味しい。バスの出発は15:30、
未だ3時間半ある。「大台ケ原へ来たら
大蛇嵓を見るべき」との清水さんの
お奨めスポット目指して出発。

大台ケ原周遊

　ここからは自然保護のために木道と

なっている。正木峠付近は立ち枯れの木が林立している。
正木ケ原からは地道を歩けるようになる。

　突然、大きな神武天皇像が出現する。「何で神武天皇が？
ここが牛石ケ原、この石が牛が寝そべっているように見

大台ケ原に何で神武天皇が？

大蛇嵓先端（数百ﾒｰﾀｰの絶壁）

える。大蛇嵓はもうじき」
とのガイド。
大蛇嵓は大きな岩が谷側へ
せり出している。
前方には大峰山の山並みが
連なっている。しっかりした柵があるので大丈夫であろうと柵の先端まで行ってみる。
下を覗いたが良く見えない。もっとのりだす勇気はなく、お腹の下部あたりがゾクゾク
としてきたので早々に引き上げた。

　※帰宅してから、柵の先端からさらに突き出たところが、大蛇嵓の先端と知る。

　駐車場へはシオカラ谷へ下り、昨日から１２本目の吊り橋を渡り、14:35に着いた。

　15:30発の奈良交通バスで、大台ケ原ドライブウエーの車窓の雄大な景色を楽しみ
ながら帰途に就く。

　今回の登山は、日本有数の多雨地帯であり、直前の天気予報で雨模様であったが、
運よく天候に恵まれたこと。

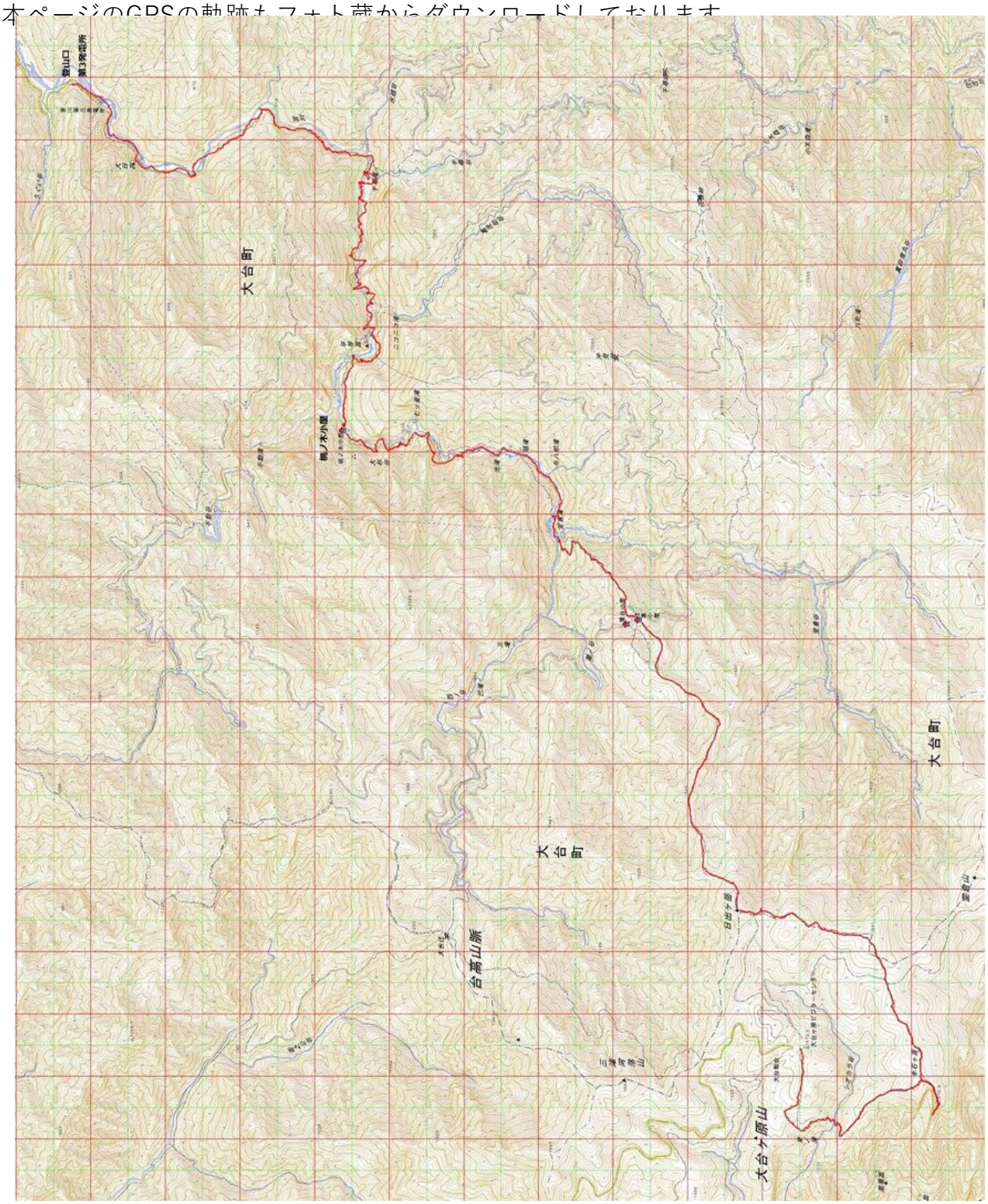
　新緑、水の碧さ、滝、渓谷、嵓（絶壁）など、大杉谷の良さを味わうことができ
楽しい山行でした。

高所恐怖症に関しては、人間がボケてきたこと、鎖や（堂倉滝付近では）岩に滑り止めのセメントなどの滑落予防が施されていたこと、岩が濡れていなかったこと、今回が登りのコースだったことなど、怖さを感じることは少なかった。

ここに載せた写真は、清水さんが撮影し「フォト蔵」に載せたものをダウンロードしたものです。「フォト蔵」には60余枚の写真がありますので、是非ご覧ください。

写真の表題は清水さんの記載をそのまま借用しました。

本ページのGPSの軌跡もフォト蔵からダウンロードしております



写真：清水

記録：永峰